

公表: 6年3月31日

事業所名 ひこうき雲 上尾南

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	38%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子やバギーでスペースをとるため、活動やトイレ誘導の動きを想定して児童が座る場所を配置している。</li> <li>・利用のお子さんが大きい子や動ける子が多いときには、テーブルを片付ける、事務所に座位保持椅子等を移動するなど、少しでも多くのスペースを usable するように工夫している</li> <li>・利用者が多いときは児童発は問題ないが、放デイは狭く感じることもある。</li> <li>・指導訓練室に極力ものを置かないなどの環境設定を心掛けている</li> <li>・スペースを有効は使えるように物の配置を見直している。</li> </ul>	
	2	職員の配置数は適切である	48%	19%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の休憩を30分ずつに分割してとったり、少ない職員数でも見守りができる活動内容を考えている。</li> <li>・帰りの送迎時、待機が一人もいないことがあるので、ドライバーさんがもう一人増えてくれると良い</li> <li>・他事業所からの応援により補っている</li> <li>・他の事業所に応援要請</li> <li>・一対一にならない日がある。</li> <li>・三事業所で協力しあっている。</li> <li>・職員間で声をかけながら業務にあたっている。</li> </ul>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	81%	5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死角や段差が多い。児童がだれひとり死角にならないように職員が動かなければならないができていないことが多々ある。</li> <li>・段差にはスロープを設けるなど工夫されている</li> <li>・玄関のスロープの固定が必要</li> <li>・危険かなと感じられる場があった場合は速やかに修繕を行うように努めています。</li> </ul>	問題点は逐次改修していきます。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の職員会議で業務改善・満足度向上などについて必ず議題に上げ、話し合っている</li> <li>・意見を出し合える人間関係が整っている</li> </ul>	
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	76%	5%	保護者の意向なのか、いち職員の理想なのか、よくわからないことが多々ある。	
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67%	5%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	52%	14%		導入を検討してまいります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	91%	0%		
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	95%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の思いを丁寧に確認している</li> <li>・子どもや親のニーズを明確した上で計画に反映させ実施し、スモールステップを目標にしている。</li> </ul>		
10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66%	9%			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	81%	5%		
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	91%	0%	・スタッフが支援内容をすぐに確認できるように、子どもの顔写真の裏に記載されている ・支援内容に沿った支援を心がけている。	
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	62%	0%		
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	91%	0%	場合によっては意図的に固定化させることもある	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	95%	0%	専門職が子どもの状態を確認しながら個別活動(リハビリ等)に取り組んでいる。	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	0%	・短い時間でも必ず朝礼を行い、活動の流れや利用児の状態などを確認し合っている ・活動は示してあるが内容を細かく伝えられていない時もある。 ・始まりの会のときに実施している。	
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	43%	14%	・退勤時間が異なるため、翌朝に行っている。 ・終礼を全員で行うことは難しいが、朝礼で前日の振り返りや反省点があれば報告相談している ・当日は退勤時間が異なるため振り返りはできないが、翌日振り返りが必要な支援については共有できている ・支援前に行っています。 ・シフトの関係もあり全員とその日には難しい時がある。 ・チャットワークを活用して気がついた点や引き継ぎを行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	0%		
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	95%	0%		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	81%	0%		
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	86%	0%	一部の子どもに当てはまっている。	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	67%	0%		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	95%	0%		
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	52%	24%		
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	57%	14%	お迎えの短い時間であるが、必要なことを伝え合い情報共有している	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	62%	10%		
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	24%	33%	公園や図書館等での交流は少しある。	
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	13%	25%		
29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時のコミュニケーションを大切にしている		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	43%	19%	活動の様子を伝えたり困りごとを窺ったりすることはあるがペアレントトレーニングはしていない	
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	95%	0%		
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%	0%		
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	24%	33%		
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	81%	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Instagramを活用している</li> <li>・Instagramで活動の紹介は頻繁に行っている</li> <li>・Instagramを活用して活動内容や様子を発信している。</li> </ul>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	37 個人情報の取扱いに十分注意している	95%	0%		
	38 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	39 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19%	52%		
非常時等の対応	40 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86%	5%		
	41 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86%	0%		
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	95%	13%		
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	0%		
	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	95%	0%		

●この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

●選択肢「どちらともいえない・わからない」があるため、「はい」と「いいえ」の割合合計が100%に満たない場合が